

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

特効薬待ちか、ウィルスネタを掻き消す劇薬待ち (P2)

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 田中 春菜

今週のドル円予想レンジ **107.80 ~ 109.30**

りそなWEEKLY COLUMN

いつから始める？何から始める？資産形成 (P3)

関西みらい銀行 資金証券部
マネージャー 高野 慧

- 一般NISAがスタートして5年になるが、日本人の資産運用は依然現金・預金が中心
- 将来の資産形成は早くから実践することが重要
- NISA制度が変わる今、投資を始めよう！

2020/1/27

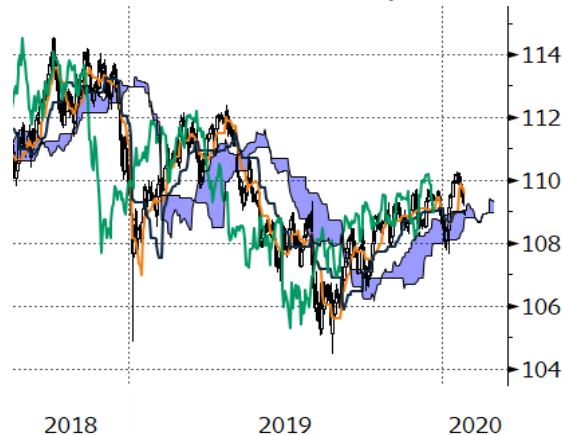
りそな外為レポート

特效薬待ちか、ウィルスネタを掻き消す劇薬待ち

今週のドル円予想レンジ **107.80 ~ 109.30**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表（日足）



◆為替相場のすすめ

年末年始の中東地域・地政学リスクも後退し、米中貿易摩擦も一次合意にサイン。ようやく懸念材料が無くなり、春節中は米企業決算に一喜一憂かと思いきや、突然招かれざる客がやってきた。2019年新型コロナウイルス。致命率は約3~4%と、2002年SARSの約9%よりは低いものの、感染拡大のスピードが速い。先週のマーケット全体は、リスク回避の動きが強まり、ドル円は円高一辺倒。今週は春節真っ只中で、中国国内では海外旅行の制限が始まるものの、患者数・死者数ともに増加しているうちは、ドル円は引き続きリスク回避を強め、一時下値を探る展開も予想される。

今になって始まった話ではないが、中国を始めとする訪日外国人の方々には、消費という側面で、財布の紐が固い日本人よりも日本経済を支えてもらっている。今回の件を対岸の火事ととらえずに、ワンチーム精神でウィルスを封じ込めできればと思う今日この頃である。他人事ではないのだ、半年後には東京オリンピックが控えているのだから。

(カスタマーディーラー 田中春菜)

◆今週の日程

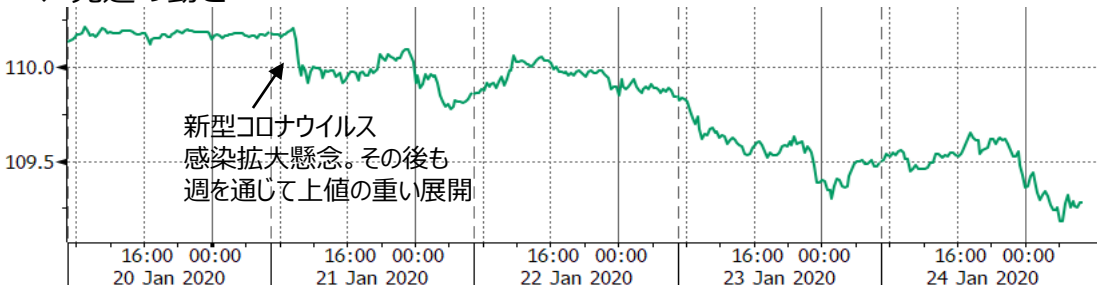
27日(月) 独 1月IFO景況感指数
27日(月) 米 12月新築住宅販売件数
28日(火) 米 12月耐久財受注
29日(水) 日 日銀「主な意見」(1/20、21)
29日(水) 米 FOMC

30日(木) 米 19/4Q GDP
30日(木) 英 BOE金融政策委員会
30日(木) 日 12月鉱工業生産
31日(金) 中 1月PMI
31日(金) 英 EU離脱

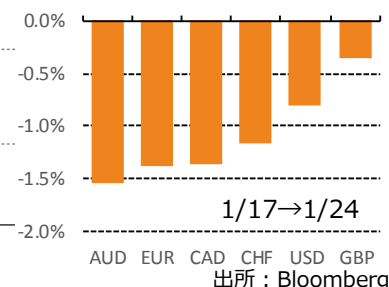
◆今週の予想 (ドル高強い ↑ 普通 ↑ ドル安強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 1月24日(金) 109.28円 VS 31日(金)

東京							大阪				埼玉					
尾股	中根	湊	井口	鳥井	田中	高尾	中里	伊藤	佐藤	鈴木	武富	野瀬	小林	津田	石井	伊藤
↑	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	休	↑	↑	↑	↓

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2020/1/27

りそな WEEKLY COLUMN

いつから始める？何から始める？資産形成

- 一般NISAがスタートして5年になるが、日本人の資産運用は依然現金・預金を中心
- 将来の資産形成は早くから実践することが重要
- NISA制度が変わる今、投資を始めよう！

関西みらい銀行 資金証券部
マネージャー 高野 慧

日本人の運用は現金・預金を中心

2014年に一般NISAがスタートして5年になりますが、筆者の家族、地元や学生時代の友人、地元の飲み屋の大將に至るまで、幅広くNISAについて聞かれることがあり、当初と比べても関心は広まりつつあると思います。

ただ、ご存じの通り日本人は金融資産の多くを現金・預金で保有しており、株や投資信託等の資産運用には依然消極的になっているようです。実際2019年9月の日銀公表の資金循環統計の「家計の金融資産」を見てみても、金融資産1,864兆円のうち、主要なものでは、現金・預金986兆円（52.9%）、株式・投資信託等270兆円（14.5%）、保険・年金528兆円（28.3%）となっています。これは長らく日本政府が掲げていた「貯蓄から投資へ」の一部として始まった一般NISAが開始する前と比べても大差のない割合です。つまり、日本においてNISAが開始して以降、結果的には一般NISAや積み立てNISAの利用者は増加し、普及しつつあるけれども、その投資が安定的な資産形成のために投資されているのは少数で、利益がある程度であれば、比較的短期間で利益確定の売りを出している方が多いことが推測されます（一概に悪いこととは思いませんが・・・）。また、そもそも日本人で投資をしている個人の方がまだまだ圧倒的に少ないことが言えると思います。

でも、それではいけないのです。

将来の資産形成は老後になってからでは間違いなく手遅れです。全く将来について不安が無いと言い切れる人は別ですが、少しでも将来の資産を今のうちから増やしたいと考えている方は早く行動すべきでしょう。お金持ちにお金が集まるとよく言われますが、お金を上手く運用している方は、将来の資産のことを早くから考え、早くから何かと実践している人が多いように思います。ただ、いきなり博打を打ったり、闇雲に投資を始めても大抵は上手くはいきません。まずは、身近な投資経験者やある程度の知識のある方、または金融機関などのプロの方に話を伺ってみることをお勧めします。そして、投資経験が少なく、これから少しずつ始めていきたいという方には1,000円から投資できるNISAを利用して始めるのが一番良いと思います。

将来の資産形成は早くから実践することが重要

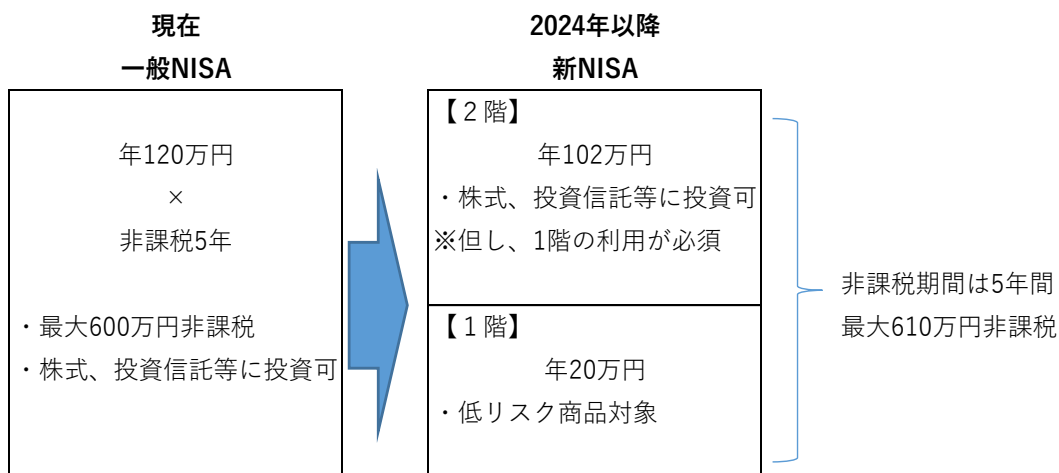


2020/1/27

りそな WEEKLY COLUMN

令和2年度税制改正大綱 でNISA制度が拡充

通常国会に提出予定の令和2年度税制改正大綱では、NISA制度が拡充されました。安定的な資産形成の仕組みとして、少額投資非課税制度である「一般NISA」と「つみたてNISA」の特徴を組み合わせた新制度となっています。概要としては、比較的风险の低い投資信託などに投資対象を限定する年間最大20万円の「積み立て枠」と株式などに投資できる年間最大102万円の「成長枠」の2階建てとなっているのが特徴で、一般NISAが期限を迎える2024年に新制度に移行します。投資による売却益や配当金などにかかる所得税が最大5年間免除され、計610万円を非課税での運用が可能となっていますが、安定した資産形成を拡大するため、成長枠の利用にあたって積み立て枠の活用が前提となるような仕組みです。



少額でも株式や投資信託等で保有する方が将来的には安定的な資産形成に役立つと思います。その際は、NISA制度を利用して「投資の魅力」を感じ、それぞれが「安定的な資産形成」を目指すことにより、少しでも「ゆとりある老後生活」を迎えていただければと思います。

